「腐女子」の性的自己決定について

田原　歩美

福山大学こころの健康相談室紀要　第６号　別刷

２０１２年３月

「腐女子」の性的自己決定について

田原歩美
福山大学大学院人間科学研究科
キーワード：「腐女子」，BL，性的自己決定

はじめに

近年，女性の性に関する問題は多く取り上げられ，女性の性的自己決定のあり方が問われている。従来，女性は弱い生き物であり，女性のセクシュアリティは抑圧，隠蔽され，男性の欲望の対象が女性のセクシュアリティとされてきた。しかし，現代の若者の性意識はめまぐるしく変化し，女性の性行動は活発化しているといえよう。そのため，セックス＝生殖・結婚という意識は薄れ，性に対して否定的なイメージを持つ女性は少なくなってきたが（日本性教育協会, 2007），このことは女性のセクシュアリティが解放されてきたというわけではない。実際，男性は快楽を重視するのに対し，女性は愛情を重視し，セックスを愛情の証と捉えている者も多い（福本，2004；和田，1999）。また，男女の恋愛関係において，イニシャチブをとるのは男性であり，避妊の決定権を持つのは男性であることが多いことから（赤澤，2008），恋愛や性行為において，男性は能動的，女性は受動的であるという考えはいまだに根強い。

性的自己決定とは，一般に，性に関わる事柄について自らの責任で選択し決定できることと考えられているが，田原（2011a）は，パートナーに対する要求ができるようなコミュニケーション力や，自分とは異なるセクシュアリティ観を容認することを含むより幅広い概念として再定義している。また，田原（2011b）は，愛情があるからこそセックスができると同時に，愛情があるからこそセックスを断れないという，セックスと愛情が密接なものであることを指摘し，愛情にとらわれないよう，パートナーと対等な関係を築くためのスキルを身につけることが必要だと述べている。そして，多様な性のあり方を知ることにより，異性愛主義にとらわれない自由な選択肢が広がると考えられることから（上野, 2008），様々な性のあり方を容認することも重要なことであるといえよう。

現代の若者たちの性のあり方は多様であり，特に，同性愛や性同一性障害といった性的マイノリティの人々がメディアで活躍し始めたことから，若者たちの性自認や性的指向，ジェンダー意識などは多面的になっているといえよう。また，性的マイノリティに関する研究の中で，多様な性のあり方に対する社会的な関心は高まりつつあるが（石丸，2008；田原，2010），同性愛や同性愛を嗜好する「腐女子」についての研究は周辺化されてしまっている。

「腐女子」とは，男性同士の恋愛を扱った小説やマンガ（ボーイズ・ラブ；以下，BL）などを好む女性のことであり（岡部，2008），もともと同性愛の要素を含まない作品の男性キャラクターを，同性愛的視点でとらえてしまう自分の嗜好や発想に対して，自嘲的に「腐っている」と称したのがはじまりとされている（三浦・金田・斎藤・山本，2007）。しかし，「腐女子」はBLを好んではいるものの，現実における同性愛には興味や関心がある者は少なく（石田，2007），あくまで虚構の中で男性同士の恋愛を楽しんでいる。そのため，「腐女子」が，実際に恋愛対象とする相手は男性つまり異性である傾向が高く（森川，2007），「腐女子」の恋愛やセックスの対象つまり性的指向（sexual orientation）と，性的な関心や好みつまり性的嗜好（sexual preference）は必ずしも一致するものではないと考えられる。

では，「腐女子」は，なぜ男女の恋愛ではなく，同性愛をテーマとする漫画あるいは小説を嗜好するのであろうか。その理由について，社会の女性蔑視が少女に内面化されたことを背景とする成熟への恐れなどの女性嫌悪や，セックスを恐れる未熟な段階の女性といった（中島，1998），ネガティブな解釈が多く議論されてきた。一方，男

性同性愛という自分とは全く関係ないテーマは主体・客体の両方から解放された世界であり（杉浦，2006），他者との関係でしか自己を確認できなかった女性が関係性の病から解放されることであるといった（香山，2007），ポジティブな解釈も現れている。また，斎藤（2009）は，BL には，少女漫画で描かれる男女のカップルに生じるジェンダー的抑圧，特に，女性にかかる抑圧が排除され対等な“関係”が描かれていることが特徴であり，女性が性において能動的な立場に立とうとする性的欲望の現れであると解釈している。

しかし，「腐女子」の好む BL は，そもそも恋愛漫画のひとつであるため，女性向け漫画と同様の特徴も持っており，登場人物の主要キャラクターとして女性は出ないという点において異なるが，恋愛やセックスにおいて，愛情を重視した“関係”が描かれているのが特徴的である。女性は，恋愛小説や恋愛漫画において，男性と比べてストーリーや性描写よりも，恋愛をする人間同士の関係性に注目する傾向があるが，その中でも「腐女子」は純愛物語の志向が高いことが示唆されている（山岡，2011）。そのため，「腐女子」は純愛物語志向が強いことから，自身の恋愛においても愛情を重視する傾向にあるのではないかと考えられる。

そして，異性愛が正しいとされる社会で男性同士の恋愛を好むという嗜好性が一般的なものとは異なるということから，自身が「腐女子」であることを隠したがる者も多く存在する（金田，2007）。また，BL には性行為の描写が含まれる作品も多く，BL を嗜好する自分はエロイ女だと認知されるのではないかという不安や恥を持っていることも理由の一つである（岡部，2008）。このことは，同性愛に対する偏見と女性に対する差別が，いまなお解消されていないといえ，「腐女子」は，女性であるという自身の性別に対して，また，同性愛に対する受容は高くとも，ネガティブなイメージを持っているのではないかと考えられる。

このように，「腐女子」の性的嗜好においては脱伝統的であるが，性的指向においては伝統的であるなど，「腐女子」のセクシュアリティ観は複雑かつ独特なものであるといえよう。以上より，本研究は，「腐女子」のセクシュアリティを性的自己決定に焦点を当てて検討することを目的とする。

方　法

参加者　H 県内の私立大学で心理学を受講する大学生・大学院生のうち，無記入・無回答の者を除いた，女性 34 名（年齢；*M*=21.6 歳，*SD*=1.18 歳），男性 35 名（年齢；*M*=21.4 歳，*SD*=1.33 歳），合計 69 名（年齢；*M*=21.5 歳，*SD*=1.26 歳）。

質問紙の構成　質問紙は以下の 3 部構成からなっている。なお，本調査は福山大学倫理委員会の審査を受け実施を承認された。⑴**「腐女子」に関する知識について**：「腐女子」という言葉を知っているかどうか（「知っている」，「知らない」，「聞いたことはあるが，意味は知らない」の 3 件法）について尋ね，「腐女子」とは，どのような人を指す言葉であるのかを自由記述で書いてもらった。また，自分が「腐女子（男子）」であるかどうか（「そう思う」，「そう思わない」の 2 件法），「腐女子（男子）」だと思う場合，自分が一般的に言われる「腐女子（男子）」にあてはまると思うかどうか（「そう思う」，「そう思わない」の 2 件法），「腐女子（男子）」ではないが，「オタク」だと思うかどうか（「そう思う」，「そう思わない」の 2 件法）を尋ねた。⑵**「腐女子」について**：「腐女（男）子」の特性を測定する尺度として，山岡（2011）の作成した「腐女子」尺度を用いた。内容は，BL（例：気がつくと好きなキャラクターでボーイズラブな妄想をしてしまうなど），趣味（例：同じ趣味の仲間同士でいると安心感があるなど）の 2 つの下位尺度で構成された，合計 41 項目であった。回答は，全くあてはまらない（1）～とてもよくあてはまる（5）の 5 段階評定とした。⑶**性的自己決定について**：性的自己決定を測定する尺度として，田原（2011a）の性的自己決定尺度を用い，信頼性が十分ではなかった負荷因子については，項目の追加や修正をおこなった。内容は，性の自己受容（例：自分のからだを大切にしていると思うなど），性の多様性（例：性的マイノリティの人のそのままを認めることができると思うなど），性の解放性（例：エイズや性感染症に感染した場合，相手と一緒に病院へ行くことができると思うなど），愛情本位のセックス（例：セックスは生殖のためだけではないと思うなど）の 4 つの下位尺度で構成された，合計 21 項目であった。回答は，あてはま

らない（1）～あてはまる（5）の5段階評定とした。

手続き　2011年10月13日～20日，授業を受け持つ教員へ事前に調査の依頼をし，許可の得られた授業時間の前半に質問紙を配布し，授業時間あるいは授業終了後に実施した。なお，倫理的配慮として，質問紙を配布する際，調査内容について説明し，回答したくない項目は，無回答・無記入でもよいことを伝え，回答が終了した質問紙は個別の封筒へ入れて，各自でアンケート回収箱に投函してもらった。

結　果

「腐女子（男子）」の認知度と実態

「腐女子」について，知っていると回答したものは，女性79.4%，男性91.４%，聞いたことはあるが意味は知らないと回答したものは，女性14.7%，男性5.7%であり，「腐女子」という言葉について，約9割の者が認知していた。「腐女子」の意味について自由記述で回答してもらった結果，①BLが好きな女性，②アニメなどが好きな女性，③女子力がない人の3パターンがあり，多くの者が①あるいは②と回答していた。自己認識による「腐女子（男子）」の割合は，女性26.5%，男性17.1%であり，　全体の2割程度であった。

「腐女子」尺度の因子分析

「腐女子」尺度41項目の平均値，標準偏差を算出し，天井効果およびフロア効果のみられた18項目を以降の分析から除外した。次に残りの23項目に対して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。第3因子の固有値の累積寄与率が50.4%であり，「腐女子」を特徴づける解釈として妥当であると考えられる3因子とした。そこで，再度3因子構造を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行い，因子負荷量.400を基準として項目を取捨選択した。その結果，.400に満たなかった4項目を除外し，残りの19項目で最終の因子分析を行った（表1）。因子寄与率は54.49%であった。

表１　「腐女子」尺度の因子分析結果

項目内容	平均値（*SD*）	因子 1	因子 2	因子 3
16 自分が好きなものをよく人にすすめる	3.22 (1.22)	.750	-.115	-.169
5 友人の中だけで通じる言葉がある	3.17 (1.49)	.683	.009	-.002
6 自分と同じものを持っている人や同じものを好きな人がいると仲間意識を感じる	3.72 (1.16)	.648	-.164	.394
2 好きな作品やキャラクターに対する情熱はなくならないと思う	3.14 (1.20)	.631	-.007	.030
14 同じ趣味の仲間同士でいると安心感がある	3.17 (1.37)	.629	-.032	.134
28 友達同士で好きなものの話をしているのが楽しい	4.13 (0.80)	.509	.094	.005
36 趣味の話で盛り上がりたい	3.83 (1.14)	.449	.316	-.164
17 趣味に熱中していると嫌なことを忘れる	3.86 (1.02)	.437	.087	.072
39 自分の趣味の世界に没頭していたい	3.22 (1.54)	.130	.763	-.120
40 美少女キャラが好きである	2.71 (1.56)	-.121	.748	.141
41 自分には変態なところがあると思う	3.10 (1.41)	.024	.673	.113
25 BLと聞いてボーイズラブと変換してしまう	3.32 (1.63)	-.167	.629	.266
22 マンガ・アニメなどの話が聞こえてくると自分も参加したくなる	2.57 (1.36)	.138	.577	.065
32 マンガ・アニメなどのキャラクターに情熱をかけている	2.36 (1.34)	.116	.564	.132
19 趣味に対してこだわりがある	3.49 (1.29)	.407	.411	-.246
33 自分は他の人と価値観やモノの感じ方に違いがあると思う	2.97 (1.34)	.371	.382	.051
24 マンガやアニメなどの中の恋愛ならば，性別は関係ないと思う	3.04 (1.47)	.004	.064	.835
3 恋愛は異性同士でするのが当たり前である（R）	3.23 (1.35)	.038	.079	.620
30 攻めの反対は受けである	3.20 (1.50)	-.130	.267	.327
*（R）は逆転項目	因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
累積寄与率：54.49%	Ⅰ	―	.597	.225
	Ⅱ		-	.412
	Ⅲ			―

表1より，第1因子は8項目で構成されており，「自分が好きなものをよく人にすすめる」，「友人の中だけで通

じる言葉がある」，「自分と同じものを持っている人や同じものを好きな人がいると仲間意識を感じる」など，趣味を通して仲間と共有意識を持つ傾向がみられたため，「趣味共有」因子と命名した。第２因子は６項目で構成されており，「自分の趣味の世界に没頭していたい」，「美少女キャラが好きである」，「マンガ・アニメなどの話が聞こえてくると自分も参加したくなる」など，漫画やアニメといった，虚構の世界である二次元に没頭する傾向がみられたため，「二次元没頭」因子と命名した。第３因子は２項目で構成されており，「マンガやアニメなどの中の恋愛ならば，性別は関係ないと思う」，「恋愛は異性同士でするのが当たり前である（逆転項目）」の２項目であり，恋愛に対する多様性を容認する傾向がみられたため，「多様性」因子と命名した。それぞれの下位尺度の信頼性について検討するため，内的整合性（α係数）による方法を用いて検討を行った結果，「趣味共有」α=.83，「二次元没頭」α=.86，「多様性」α=.81 であり，十分な値が得られたといえよう。

性的自己決定尺度の因子分析

性的自己決定尺度 21 項目の平均値，標準偏差を算出し，天井効果およびフロア効果のみられた３項目を以降の分析から除外した。次に残りの 18 項目に対して主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。第４因子の固有値の累積寄与率が 51.6%であり，性的自己決定の解釈として妥当であると考えられる４因子とした。そこで，再度３因子構造を仮定して主因子法・Promax 回転による因子分析を行い，因子負荷量.400 を基準として項目を取捨選択した。その結果，.400 に満たなかった６項目を除外し，残りの 12 項目で最終の因子分析を行った（表２）。因子寄与率は 68.44%であった。

表２　性的自己決定の因子分析結果

項目内容	平均値	(*SD*)	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4
6 自分が同性に恋愛感情を抱いても，その感情を素直に受け止めることができると思う	2.42	(1.22)	.833	-.129	.038	-.111
21 性的マイノリティの人と共同生活（寮など）を送ることができると思う	3.12	(1.28)	.706	.000	-.100	.012
4 性別は「女性」「男性」の2つでなくてもいいと思う	3.36	(1.14)	.647	-.082	.165	.122
11 性的マイノリティの人のそのままを認めることができると思う	3.54	(1.09)	.622	.307	.145	-.151
19 家族が性的マイノリティであることは，自分の生活に全く影響しないと思う	2.90	(1.34)	.616	.052	-.309	.174
14 エイズ・性感染症などのリスクを十分に理解していると思う	3.38	(1.24)	-.018	1.010	-.113	-.091
12 自分自身のからだのことを把握していると思う	3.33	(1.08)	-.164	.688	.134	.206
15 自分自身の性や性的指向を理解していると思う	3.57	(1.14)	.078	.665	.016	.045
2 自分のからだを大切にしていると思う	3.55	(1.38)	-.060	.052	.749	-.149
1 「らしさ」ではなく「ありのまま」の自分を受け入れていると思う	3.61	(0.99)	-.080	-.036	.447	.141
5 好きな人に対してでも嫌なことは嫌と言えると思う	3.70	(1.10)	.166	-.036	.438	.289
18 本当の自分を安心して見せられる相手がいる	3.36	(1.44)	.024	.071	.054	.751
累積寄与率：68.44%	因子間相関		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
		Ⅰ	－	.266	.203	.089
		Ⅱ		－	.414	.016
		Ⅲ			－	.103
		Ⅳ				－

表２より，第１因子は５項目で構成されており，「自分が同性に恋愛感情を抱いても，その感情を素直に受け止めることができると思う」，「性的マイノリティの人と共同生活（寮など）を送ることができると思う」，「性別は“女性”“男性”の２つでなくてもいいと思う」など，多様な性のあり方に対する受容や理解の傾向がみられたため，「性の多様性」因子と命名した。第２因子は３項目で構成されており，「エイズ・性感染症などのリスクを十分に理解していると思う」，「自分自身のからだのことを把握していると思う」，「自分自身の性や性的指向を理解していると思う」の３項目であり，自身の性に対し理解を示す傾向がみられたため，「性の理解」因子と命名した。第３因子は３項目で構成されており，「自分のからだを大切にしていると思う」，「“らしさ”ではなく“ありのまま”の自分を受け入れていると思う」，「好きな人に対してでも嫌なことは嫌と言えると思う」の３項目であり，自身の性に関する選択や管理を示す傾向がみられたため，「性の自己管理」因子と命名した。第４因子は１項目であり，因子としては成立しないため，第４因子は除外した。それぞれの下位尺度の信頼性について検討するため，内的整合性（α係数）による方法を用いて検討を行った結果，「性の多様性」α=.81，「性の理解」α=.82，は十分な信頼性が得られたが，「性の自己管理」α=.55 であり十分な信頼性は得られなかった。

「腐女子（男子）」の性的自己決定

男女別に「腐女子（男子）」と「腐女子（男子）」でない人（以下，一般人）の差を比較するため，「腐女子」尺度の各下位尺度と性的自己決定尺度の各下位尺度について，*t* 検定を行った（表 3）。なお，調査の結果から，自己認識による「腐女子（男子）」の人数が非常に少数であったため，今回の分析は，自己認識で，「腐女子（男子）」ではないがオタクと回答した者も腐女（男）子とした。

表 3　「腐女子」尺度および性的自己決定尺度の平均値（男女別）

	女性					男性				
	腐女子(20人)		一般(14人)		*t* 値	腐男子(21人)		一般(14人)		*t* 値
	平均	(*SD*)	平均	(*SD*)		平均	(*SD*)	平均	(*SD*)	
趣味共有	3.67	(0.83)	3.13	(0.82)	1.86	3.85	(0.64)	3.26	(0.78)	2.44 *
二次元没頭	3.46	(1.01)	1.92	(0.84)	4.69 **	3.50	(0.78)	2.08	(0.89)	4.99 **
多様性	3.68	(0.99)	2.71	(1.20)	2.55 *	2.98	(1.23)	1.89	(1.23)	2.56 *
性の多様性	3.66	(0.83)	2.87	(0.89)	2.66 *	3.04	(0.85)	2.46	(0.71)	2.12 *
性の理解	3.40	(1.10)	3.60	(1.00)	-0.39	3.30	(1.02)	3.40	(0.82)	-0.32
性の自己管理	3.78	(0.65)	3.88	(0.83)	-0.38	3.29	(0.88)	3.62	(0.96)	-1.06

$^{*}p<.05$，$^{**}p<.01$

その結果，女性は，二次元没頭（t（32）=4.69, p=.000），多様性（t（32）=2.55, p=.016），性の多様性（t（32）=2.66, p=.012）において「腐女子」のほうが有意に高く，男性は，趣味共有（t（32）=2.44, p=.020），二次元没頭（t（32）=4.99, p=.000），多様性（t（32）=2.56, p=.015），性の多様性（t（32）=2.12, p=.042）において，「腐男子」のほうが有意に高かった。以上より，多様性および性の多様性について，男女ともに「腐女子（男子）」のほうが許容的であり，また，二次元に没頭しやすいのも男女ともに「腐女子（男子）」であることが認められた。

考　察

本研究は，「腐女子」のセクシュアリティを性的自己決定に焦点を当てて検討することを目的とした。まず，「腐女子」の認知度と実態であるが，「腐女子」という言葉を知る者は男女ともに約 9 割と，「腐女子」の認知度は高かったが，「腐女子」の意味については，「アニメなどが好きな女性」と答えるものも多かった。「腐女子」は，本来 BL 好きの女性を指す言葉であるが，近年，女性のオタク全般を指す言葉として広がっている傾向もあるため（岡部，2008），「腐女子」の定義が曖昧であることが認められた。また，「腐女子」という言葉を知っていても意味を知らない者，「腐女子」という言葉を知らない者は，「女子力のない人」と答える傾向にあり，「腐っている女子」という漢字のイメージから，「女性らしくない人」という認識を持っているのではないかと考えられる。「腐女子（男子）」の実態であるが，自己認識で「腐女子（男子）」と回答した者は約 2 割と少数であった。金田（2007）が指摘するよう，「腐女子」は自身が「腐女子」であることを隠そうとする傾向があるため，質問紙による調査が匿名とはいえ，「腐女子（男子）」であることを隠していた者もいたと考えられる。

次に，「腐女子」尺度についてであるが，山岡（2011）の研究では，BL への志向性やキャラクターへの熱中度を示す BL 因子と趣味への熱中度や趣味を通じた友人との交流を示す趣味因子の 2 因子だったが，本研究では趣味共有因子，二次元没頭因子，多様性因子の 3 因子となり，山岡（2011）とは異なる結果が得られた。その理由として，山岡（2011）は対象者が腐女子のみであったのに対し，本研究は「腐女子（男子）」の人数が少なく，オタクと一般人を含めて因子分析を行ったため，結果が異なったのではないかと考えられる。そのため，「腐女子」の特徴である BL 因子は見出されず，アニメや漫画に没頭するという二次元没頭因子が見出されたのではないかと考えられる。また，分析の際，天井効果とフロア効果により，BL に関する多くの項目が削除されてしまった

ため，「腐女子」と一般人をわけて分析することにより，異なる結果が得られるのではないかと考えられる。

次に，性的自己決定尺度についてであるが，本研究では，性の多様性因子，性の理解因子，性の自己管理因子の３因子が見出された。田原（2011a）の研究によると，愛情本位にならないよう，対等なコミュニケーション力を築くことも，性的自己決定の重要な要素だと示唆されたが，本研究では，パートナーとのコミュニケーション力についての因子は見出されなかった。しかし，田原（2011a）の結果同様，本研究でも，性の多様性が性的自己決定に含まれており，様々な性のあり方や他者のセクシュアリティ観を受容することは，性的自己決定の重要な要素であるといえる。そして，多様性を理解し受容することは，他者とのコミュニケーション力が必要であると考えられる。また，本研究の結果より，自己の性をどのように理解しているか，自己の性をどのように選択し，受け入れているか管理をする，という田原（2010）や田原（2011a）では見出されなかった因子が見出された。この結果は，性的自己決定が，自身の性について理解し，自身の性のあり方を自らが決めるというものであることを示しており，性的自己決定の本質を捉えた結果であるといえよう。

そして，「腐女子」の性的自己決定についてであるが，「腐女子（男子）」と一般人で違いがみられたのは，性の多様性のみであり，「腐女子（男子）」のほうが性の多様性について受容的であることが認められた。石丸（2008）は，同性愛に対して受容的な態度を示すものの特徴として，同性愛者が身近にいる者で，固定的な性役割にとらわれない考えをもった人であることを明らかにしており，このことから考察すると，「腐女子（男子）」は，BLを嗜好するという，一般的な性嗜好とは異なるセクシュアリティ観を持つことによって，同性愛に対する認識を高めているのではないかと考えられる。つまり，性の多様性に理解があるため，同性愛が描かれた作品を好むのではないかと考えられる。ただし，「腐女子」尺度の因子分析で見出された恋愛に対する多様性では，「マンガやアニメなどの中の恋愛ならば，性別は関係ないと思う」というような結果も得られていることから，虚構の世界における同性愛に対する認識は高まったとしても，現実における同性愛に対する認識や態度は異なる可能性が示唆される。

また，「腐女子（男子）」は二次元に没頭しやすく，「腐女子（男子）」ではないがオタクだと回答した者が，男女ともに半数を超えていることから，「腐女子（男子）」は，男性同士の恋愛が描かれたものを好むという特徴があるが，二次元に没頭する点においては，オタクと類似していると考えられる。これは，本研究で，「腐女子」の意味について質問したところ，「アニメ好きな女性」と回答した者が多くいたことからも，説明できるだろう。

以上より，「腐女子」は，二次元（虚構の世界）を好むといった特徴があり，多様な性のあり方に受容的であることが認められたが，自己の性に関する理解や管理という点においては，一般人とほとんど変わらない傾向を持つことが示唆された。

最後に，本研究の限界と課題を述べる。本研究は，参加者が69名と少なく，また，「腐女子（男子）」の人数も非常に少なかったため，BLが好きな女性である「腐女子」の特徴であったとは言い難いため，参加者および「腐女子」の人数を増やし，再度検討していく必要があるだろう。そして，本研究は，性的自己決定の観点から，「腐女子」のセクシュアリティを検証したが，彼女らがどのような恋愛観やジェンダー，セクシュアリティ観を持っているのかを明らかにすることはできなかった。そのため，今後は，「腐女子」自身が，「腐女子」をどのように思い，どのような恋愛観やセクシュアリティ観を持っているのかについて，インタビュー調査を実施し，彼女たちの声を直接聞くことによって，「腐女子」のセクシュアリティについて検討することが期待される。

引　用　文　献

赤澤淳子　(2008).　恋愛とジェンダー　青野篤子・赤澤淳子・松並知子（編）　ジェンダーの心理学ハンドブック　ナカニシヤ出版　pp.112-130.

福本　環　(2004).　男女大学生の性交渉に対する態度――性差・性交経験の有無の差からの検討――　思春期学, **22**, 262-267.

石田　仁　(2007).　ゲイに共感する女性たち　ユリイカ, **39** (7), 47-55.

石丸径一郎　(2008).　異性愛者がレズビアン・ゲイ・バイセクシュアルに対して抱いているイメージ　同性愛者における他者からの拒絶と受容　ミネルヴァ書房　pp.41-60.

金田淳子　(2007).　やおい論, 明日のためにその2。　ユリイカ, **39** (16), 48-54.

香山リカ　(2007).　腐女子の自我は煙と消えた　ユリイカ, **39** (7), 37-40.

三浦しをん・金田淳子・斎藤みつ・山本文子　(2007).　2007年のBL界をめぐって――そして“「腐女子」”とは誰か――　ユリイカ, **39** (16), 8-25.

森川嘉一郎　(2007).　数字で見る「腐女子」　ユリイカ, **39** (16), 124-135.

中島　梓　(1998).　タナトスの子供たち――過剰適応の生態学――　筑摩書房

日本性教育協会（編）　(2007).　「若者の性」白書――第６回 青少年の性行動全国調査報告――　小学館

岡部大介　(2008).　「腐女子」のアイデンティティ・ゲーム――アイデンティティの可視／不可視をめぐって――　認知科学, **15**, 671-681.

斎藤みつ　(2009).　「やおい・BL」の魅力とは何か？　性科学ハンドブック, **12**, 7-22.

杉浦由美子　(2006).　腐女子化する世界――東池袋のオタク女子たち――　中央公論社

田原歩美　(2011a).　青年期における性的自己決定に関する研究――性的自己決定尺度の作成――　公益信託松尾金藏記念奨学基金（編）　明日へ翔ぶ２　風間書房　pp.161-172.

田原歩美　(2011b).　青年期を対象とした性教育プログラムの効果の検討――性的自己決定の向上を目指して――　福山大学こころの健康相談室紀要, **5**, 11-18.

田原歩美　(2010).　性的自己決定と性経験の関連性について　福山大学こころの健康相談室紀要, **4**, 59-66.

上野淳子　(2008).　心理学における性的マイノリティ研究――教育への視座――　四天王寺大学紀要, **46**, 73-83.

和田　実　(1996).　青年の同性愛に対する態度――性および性役割同一性による差異――　社会心理学研究, **12**, 9-19.

山岡重行　(2011).　「腐女子」と純愛物語志向性　日本心理学会第 75 回大会発表論文集, 138.

Sexual self-determination of “Fujoshi”

Ayumi Tahara

The word “Fujoshi” written as “rotten girl” in Kanji means young women who like to read boys love(BL) comics. This study aimed to examine “Fujoshi”’s sexuality from the viewpoint of sexual self-determination. Thirty four female and 35 male students who attended a lecture of psychology were administered the questionnaire. About 90% of the students knew about “Fujoshi”, and about 20% of the students acknowledged oneself as “Fujoshi”. The scale of “Fujoshi” consisted of three factors, i.e. commonness of hobbies, commitment to two-dimension, and diversity. The scale of sexual self-determination was consisted three factors, i.e. diversity of sexuality, comprehension of sexuality, and sexual self-organization. “Fujoshi” showed a higher score in diversity of sexuality. It is suggested that is why “Fujoshi” is concerned about boys love comics.

（指導教員：青野篤子）